

科目名	文化構想学概論				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照		
開講期	秋学期	開講学部等	文化学部	配当年次	1 年次
				単位数	2 単位
教員名	大平 睦美, 小川 知恵, 梶原 洋一, 久米 裕子, 倉科 岳志, 桑原 夏子, 近藤 剛, 須永 恵美子, 田中 里奈, 中 良子, 中田 美絵, ヒューバート ラッセル ポール, 平澤 剛, 藤高 和輝				

授業概要／Course outline

この授業は、文化構想学の多様な専門領域をリレー講義形式で横断的に学ぶ導入科目です。各教員が自身の専門分野をわかりやすく紹介し、文化を多角的に捉えるための視点を提示します。授業は、文化構想学を三つのトピック——「文化表現」（文学・芸術系科目）、「文化理解」（歴史・思想系科目）、「文化情報・交流」（英語・デジタル系科目）——に分けておこないます。つまり文学や芸術作品との出会いを起点に、その思想的・歴史的背景を探究し、そこから得られた知見をもとに文化を発信・交流するという、文化構想学の学びのプロセスを体験的に理解してもらいます。多様な文化事象に触れ、それらを主体的に比較・考察することで、新たな価値観や表現のあり方を構想する力が身に付きます。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
- ・オンデマンド授業（1回）を含む、補足説明・資料配付・課題提出をオンデマンドでおこないます。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 導入（久米）

世界の多様な文化を探究し、新たな価値を創出する学問として、人文学の役割について講義します。

<トピック①：文化表現>

第2回 文化とことば／文学のことば（中）

文化とは人間が創造したものすべてです。その最小単位の、かつ根源的なものがことばでしょう。そして文学は、ことばによって創られた作品です。長らく文化研究が文学研究と同義であった所以です。生成AIがことばを紡ぐ時代、文学はいかなる変容を遂げてゆくのでしょうか。人間のことばとAIのことばは何が違うのでしょうか。一緒に考えてみましょう。

第3回 ミュージカルはアート？ビジネス？（田中）

ストーリーを歌って踊る舞台・映画のジャンルをミュージカルと言います。アメリカで形成され、日本をはじめ世界中に広がったこのジャンルを商業と芸術の両側面から講義します。

第4回 美しい、だけじゃないー西洋美術史ことはじめー（桑原）

美術史の基本となるディスクリプション（作品記述）の実践、そして「見る」と「観察する」ことの違いについて学びます。また芸術作品が社会問題や歴史問題を内包するものでもあることを、具体的な作品をあげて解説します。

第5回 「メディア」から考える映像とアート（平澤）

映像作品やメディアアートは、フィルムからビデオ、デジタル、インターネット、AIへと技術が更新されるたびに、どのように変化してきたのか、その歴史をたどります。

<トピック②：文化理解>

第6回 キョンシーはなぜ故郷に帰るのか？（久米）

映画のワンシーンを手がかりに、中国の三大宗教、儒教・仏教・道教について解説します。

第7回 「愛」って、ひとつじゃない。（近藤）

西洋の文化史・精神史を通して学ぶ、あなたの知らない「愛」のカタチ！

第8回 周縁から歴史を構想するー仏教と宦官ー（中田）

仏教と宦官という「周縁」的存在を手がかりに、中国の歴史の見方を再考します。

第9回 中世ヨーロッパも学歴社会だった？（梶原）

現代まで続く大学制度が中世ヨーロッパで生まれ、大学が発行する学位が社会的ステータスとして重要性を獲得する歴史のプロセスを概観します。

★オンデマンド回 「キス」から考えるジェンダー（藤高）

「キス」という身近な〈文化〉を題材にジェンダーやセクシュアリティについて考察します。

<トピック③：文化情報・交流>

第10回 デジタルの文化遺産を使いこなす（須永）

デジタルアーカイブを活用し、文化遺産を「見る・調べる・比較する」ための基本的な方法を学びます。

第11回 世界の図書館巡り一知の継承 メディアとしての図書館―（大平）

スマホやインターネットがなかった時代から今日まで、人々はどのように知識を伝達して来たのでしょうか？世界の国々の図書館をメディアとして資料や建物、歴史を考えます。図書館を知ることで、これからの大学生活での図書館活用方法を学びます。

第12回 音楽文化のデジタル変換（ヒューバート）

テクノロジーの進歩によってもたらされた音楽鑑賞の歴史的変化を概観し、デジタル技術が音楽文化に与える影響について考察します。授業の前に以下のアンケートにご回答ください。<https://forms.gle/m8JDAe63DgR56r1w6>

第13回 World Englishesを旅しよう（小川）

世界で実際に使われている多様な英語を旅するようにたどりながら、英語との向き合い方を考えます。

第14回 総括・座談会：カルチャー沼へようこそ（司会：久米、登壇者：田中・倉科・須永）

人文学に憑りつかれた3人の研究者が学びのプロセスといまを語り、文化を構想するにあたって根底となる方法論について考えます。田中はウィーンミュージカルと芸術社会学、倉科はイタリア思想史研究と文献学、須永はパキスタンの宗教文化とフィールド調査についてお話しします。

事前・事後学修／Preparation and assignments

※各回の授業について、事前・事後あわせて180分の学修を行うことが求められています。

〔事前学習〕シラバスを読んで、各回のテーマのキーワードについて調べておいて下さい。

〔事後学習〕授業で紹介した書籍やWebサイトにあたって下さい。

授業の到達目標／Expected outcome

1. 現代におけるグローバリゼーションと文化の多様性について理解を深める。
2. 世界の文化を学ぶための方法・理論・考え方・専門用語などを把握する。
3. 2年次以降の専門的学びにつながる情報・知識を得る。

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・この授業は必修です。毎回出席し、文化学部における学習の基盤を構築して下さい。
- ・大人数の授業です。私語が多い場合は、座席指定にすることも検討します。
- ・課題の内容は毎回ごとに異なります。授業の前後にmoodleを確認するなどして、しっかり対応して下さい。
- ・課題について、生成AIに丸投げしていると教員が判断した場合は、評価の対象外とします。
- ・課題が小テストになることもあります。

評価方法／Evaluation

平常点（各回の授業で出される課題や小テスト等の点数の合計）100%

教 材／Text and materials

教室またはmoodleでプリントなどを配付します。

質問や相談の方法／Instructor contact

この授業に関して、各回の授業や課題に関する質問は、その回の担当者にメールして下さい。担当者の連絡先は、初回授業及びmoodleでお知らせします。メールをする際には、学部・学科・年次・学生証番号・氏名とともに「科目名」も書いて下さい。